

00	09	03	002	永年保存	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長		副議長		事務局長		副主幹		主査		担当		担当		文書取扱主任

第4回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日	平成19年8月21日(火曜日)		開会:10時00分	閉会:11時00分
開催場所	第一委員会室			
出席委員	井上、山木、酒井、本間、山口、荒木、堀、田村		事務局	飯沼事務局長
	議長			田湯副主幹
欠席委員	渡辺			對馬主任主事
説明員	別紙のとおり			
議件	別紙のとおり			
議 事 の 概 要	1 調査事項について			
	次の事項について、所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。			
	(1) 前回要求資料説明等について			
	(2) その他			
	2 その他について			
	体外衝撃波破碎装置の購入について			
	3 次回委員会の日程について			
	平成19年8月28日(火) 午前10時 第一委員会室			
上記記載のとおり相違ない。 市立病院建替計画等調査特別委員長 井上正雄 印				

平成19年8月20日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成19年8月8日付け滝議第63号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願ひします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願ひします。

記

滝川市長の委任を受けた者

理事	谷田部 篤
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築準備室長	菊 井 弘 志
市立病院事務部事務課改築準備室主幹	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築準備室副主幹	配野英夫
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	佐 藤 智 人
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	横 田 和 典

(総務部総務課総務グループ)

第4回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19. 8. 21(火)10:00～
第一委員会室

○開 会

○委員動静

1. 調査事項について

- (1) 前回要求資料説明等について (資料)
- (2) その他 (資料)

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

8月28日(火) 10:00 第一委員会室

○閉 会

第4回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19. 8. 21 (火) 10:00～

第一委員会室

開 会 10:00

委員動静報告

委員 長

渡辺委員欠席。酒井委員遅刻。議長出席。空知新聞社、北海道建設新聞の傍聴を許可。

委員 長

1 調査事項について

(1)について説明願う。

(1) 前回要求資料説明等について

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

報告が終わった。前回の資料要求のあった説明だが質疑はあるか。

荒 木

市長の発言内容については、この場では言うつもりはないが、国が認めれば将来的に大丈夫だという旧来的な認識を逸脱していないという印象がある。それを認識した上で市民に安心感を与えるために説明をしているのであれば、さらに悪質だという印象を持っている。診療報酬の関係は詳しくわからないが、18年度については単年度でよすぎたようである。ただ、その18年度ベースで30年の収支計画を作成しているので大丈夫なのか。19年度は例年並みで推移しているようだが、あまりにもよかった年をベースに作成しているのは危険ではないかという印象があるが考え方を伺いたい。

東 部 長

18年度ベースということであるが、確かに18年度は結果的によい部分はあると思う。ただ、資料は16年度から載せているが、それ以前もよい時期があった。19年度については外来が伸びている。問題は入院である。入院については内科の医師が2人減ったのが大きな要因となっている。10月に1名確保できるので期待している。今後も医師確保について当然努力をしていく。医師が確保できれば18年度並みの見込みは可能だと考えている。

委員 長

他に質疑はあるか。

田 村

医師、看護師は現在間に合っているのか、不足しているのかを伺いたい。新病院を建てた場合に医師、看護師は間に合うことになるのか。不足する場合はどの程度となるかを伺いたい。

委員 長

資料について関連した質疑はあるか。

本 間

仕組みを教えてください。外来延患者数の月平均が16年からコンスタントに減ってきている。1日当りの診療報酬請求額はコンスタントに伸びている。これは収益率の低い診療科目がなくなったとの説明だが、この要因について説明していただきたい。

東 部 長

医師と看護師の状況であるが医療法上での定数、診療報酬上での定数などがある。看護師については医療法上の定数は満たしている。入院看護基準が10対1ということで行っているが、7対1となると約10人程度不足する状態である。2カ年計画で7対1看護を目指したいと考えている。医師については、医療法上の定数からみると不足している。不足人数については、入院患者と外来患者の数で変動するが、数人の不足があるのは間違いない。定数上では40人で、基本計画では医師の数について新年度から35人で見込んでいるが、4月1日現在では36人である。医療法上の医師不足について明確なめどはたっていない状況である。1日当りの診療収入が伸びているのは、耳鼻咽喉科の単価の低い患者が減ったことがある。ただ、今まで伸びてきているのは高齢者の慢

性的な病気の方が多く従来は2週間以内に通院していたが、長期投与ができることになり、通院時に検査、レントゲンをすることが多くなるので単価的には伸びる状況になる。医師数についてだが、4月1日現在嘱託医師を含めて36人であり、6月1日現在では正規職員32人、研修医を含めた嘱託医が6人という状況である。

田 村 患者数、収益は大事なことだが、医師の数あるいは評判によって変わると思う。医師、看護師を確保できるのかが最大の目標であり、患者はそれについてくると思う。利益の追求に見えるが医師をいかに確保するのか妙策があるのか。

東 部 長 医師については、北大、札医大、旭川医大からの研修指定病院になり、ほとんど医局から派遣という形で受けている。安定的に医師を確保することについては、医局に頼る部分が大いと思っている。大学の医局には院長も訪問して要請している状況である。それだけでは確保できないこともあり民間の医師を確保するための会社があるのでそこに登録をしたり、防衛医大の医師については9年間の義務があるが9年を過ぎた医師を対象に募集広告を出している。また、院長が個人的に依頼する、谷田部理事が滝川市に関係する医師に依頼するなど医師確保に努めている。常勤医の確保は難しいが、検診の医師が非常勤で来ていただいている。今後も引き続き最大限努力していく。

委 員 長 休憩する。

休 憩 10:26

再 開 10:29

委 員 長 再開する。

本 間 外来の報酬請求金額がここ4年間で最高の状態である。最高の状態でも平成19年度予算の金額には達するペースではない。入院も19年度予算に達しないペースにあると思うがいかがか。開業ブームであるがこれによる影響度はどのように考えているか。

東 部 長 予算の立て方である。歳出に不足を来してはならない。人件費も不足しないように積算しているのが実態である。過去の実績ベースでいくとどうしても黒字経営基調があり、入院、外来収益を多く積算しないと予算上の収支が合わないということがあり、19年度予算で入院36億円、外来17億円とかなり多くみている。20年度以降の計画だと外来16億5,900万円で19年度予算より少ない額としている。これは実績ベースで考えているためである。入院については38億円と伸びているが、7対1看護の部分であり、その分を除くと19年度予算より落ちていることになる。19年度予算は少し多めに積算しているが、20年度以降は実績ベースで積算しているので低い数値となっている。開業の影響については、事象によって違ってくると思う。例えば耳鼻咽喉科のように常勤医師がいなくなると大きな影響が出ると思うが、過去に市内で開業された方についてはかなりの人が当院で勤務した医師であり、開業時は一時的に落ち込むことはあるが、その後回復をしているのが実態となっている。地域全体としてどうあるべきなのかが最も重要である。特に今開業している方は、無床診療所であり、入院患者を受ける状況ではない。基本計画においては市内の診療所との連携をした上で地域医療を守っていく。このようなことが重要だと思っている。地域医療室についても職員の入れかえをする中で体制を強化している。特に市内の開業医との連携については一層力を入れる必要があると思っている。

堀 18年度の入院、外来診療費は確定していると思う。その他医業収益はどうなっているのか。

東 部 長 統計の取り方がある。診療報酬の請求額で載せている。実際の決算は診療報酬で請求をしても査定で落ちることもある。再請求により復活することもある。月々の科別の統計となると診療報酬請求上で算出しないと統計として活用できない。例年、診療報酬上の請求額と決算の数値とは差が出ることになる。

委 員 長 休憩する。

休 憩 10 : 38

再 開 10 : 41

委 員 長 再開する。堀委員からの質疑に関しては精査して差しかえを提出すること。他に質疑はあるか。(なし)

東 部 長 (1)について報告済みとする。(2)その他について説明を求める。

地域懇談会を開催する中で、収支の見込みについて質問があった。内部協議の結果、事務方で作成したことに対する不信感もあるのかと思う。第三者的な視点で事業計画が収支見通しに正しく反映されているのか。基本的な考え方として潜在患者数、将来の患者数、平成18年度ベースとする考え方に無理はないか。第三者のチェックを受けるため、今月上旬に大学の経済学の教授、実務的な部分で中小企業診断士、当院にかかわっていない医療コンサルタントの3者に計画上の問題、考え方に無理はないかをお願いした。29日に市長、副市長、院長を交えて意見をいただくことにしている。あわせて今後の収益改善につながる提案も出していただけるように進めている。

委 員 長 報告が終わった。質疑はあるか。(なし)

(2)について報告済みとする。

2 その他について

東 部 長 泌尿器科の体外衝撃波結石破碎装置を8月20日から稼働する。

(別紙資料に基づき説明する。)

委 員 長 破碎装置の導入について厚生常任委員会で報告し、希望者は見学することとしたい。

田 村 この装置の価格、入札経過、耐用年数について伺いたい。

東 部 長 金額については資料が手元にないので回答できない。今回の導入にあたっては同性能の機種による選考で6社から参考見積もりを提出させた。定価と納入価格、維持管理経費についての資料を依頼し、さらに数回参考見積もりを提出させた。性能が同程度なので価格勝負となったが、最終的には2社に絞り込んだ。定価から見ると相当安く導入したと考えている。正確な内容は次回の委員会で報告する。耐用年数については5年間としており、機械により変わるが使える間は使用している。

委 員 長 他に質疑はあるか。(なし)

ほかに何かあるか。(なし)

3 次回委員会の日程について

委 員 長 8月28日午前10時に第一委員会室で開催することよろしいか。(よし)

8月24日ころに基本設計ができてくるので机上配付をする。28日は基本設計の説明となる。案内はがきは省略する。

田 村 27日に北海道医療協議会からの提案が出されると思うので28日の委員会に提示できないか。

委 員 長 休憩する。

休 憩 10 : 54

再 開 11 : 00

委員長

再開する。次回は8月28日、その次は9月3日を予定している。
以上で第4回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉会 11:00